# 動けずとも国動かす

写真は毎日新聞 7 月 22 日夕刊。当選確実となった舩後靖彦氏（左）に頭を下げるれいわ新選組の山本太郎代表＝東京都千代田区で 21 日午後 9 時 48 分。標題とともに「この俺が日本の医療・介護界 変えてみせる」といった大きな見出し。途中まで紹介したい。

動けずとも国動かす

この俺が日本の医療

参院選 2019

れいわから当選 ALS舩後さん

リードから―全身の筋力が低下する難病の筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者で、れいわ新選組から参院選比例代表の特定枠 1 位で出馬した舩後靖彦氏(61)=千葉県松戸市=が初当選した。人工呼吸器を着けた全身まひの国会議員の誕生は初めて。難病の当事者として、選挙戦で訴えてきた「障害者も健常者もない社会の実現」に取り組む。

「自分と同じ苦しみを仲間に味わわせたくない」「(障害者に）必要な支援は何か、今一度考え直していただける制度を作っていきたい」。当確が伝わった 21 日夜、東京都千代田区のホテルで、舩後氏が事前に準備したコメントが読み上げられると支援者から拍手が起こった。車椅子に座った舩後氏の目からこぼれた涙を介助者がそっとぬぐった。

舩後氏は商社マンだった 2000 年、42 歳で ALS と診断された。「治療法はなく、人工呼吸器を着けなければ 3～4 年で絶命する」という医師の言葉に絶望し、延命治療を拒否したこともあった。しかし、家族への思いや、患者同士が支え合う活動を通じ「病気に負けるわけにはいかない」と延命を決意。02 年に人工呼吸器を着け、現在は看護・介護サービス会社の経営や講演活動に携わる。

れいわの山本太郎代表から出馬を要請されたのは今年 6 月。選挙戦では計 4 回、車椅子で都内の街頭に出た。歯で噛むセンサーで操作するパソコンで事前に演説文を作り、介助者に代読してもらった。「人の価値を生産性で測るような社会にならないよう、命の大切さを重んじる教育改革を進めたい」。雨が降っても壇上で訴えた。

そこまでして出馬した背景には、自身の経験がある。以前、入所していた施設では、入浴サービスの回数を手間がかかるという理由でこっそり減らされた。「法律が変わった」とうそをつかれ、保険適用の栄養剤を毎月約 5 万円で購入させられたこともあった。「患者を見下すような医療・介護業界を変革したい」。16 年には相模原市で「障害者は生きる価値がない」と元施設職員が重度障害者 19 人を殺害する事件が起こり、その思いが強くなった。

当確から一夜明けた 22 日朝、文字盤を使って「議員になる自覚がこみ上げてきた」と語った。意気込みを最近、短歌でこう詠んだ。

「この俺が日本の医療・介護界 変えてみせると頬赤く染め」

（2019 年 7 月 25 日）